

第2編 海・港と歴史を活かすまち

第1章 活力ある産業のまちづくり

- | | | |
|-----|----------|---|
| 第1節 | 水産業の活性化 | (1) 魚市場の活性化
(2) 水産加工業の振興
(3) 浅海養殖漁業の振興 |
| 第2節 | 港湾機能の強化 | (1) 港湾機能の強化促進
(2) 利活用の推進
(3) “みなと”の魅力向上 |
| 第3節 | 商工業の振興 | (1) 商店街の活性化支援
(2) 中小企業経営支援の充実
(3) 企業立地の推進
(4) 就業・雇用環境の向上 |
| 第4節 | 産業間連携の促進 | (1) 異業種交流の促進
(2) 新たな産業展開の支援
(3) 広域交通体系の整備 |

第2章 観光と交流のまちづくり

- | | | |
|-----|-------------|--|
| 第1節 | 都市観光の推進 | (1) 観光資源の創造と情報発信の推進
(2) 笑顔でもてなす体制の充実
(3) 広域観光の推進 |
| 第2節 | 魅力ある都市空間の形成 | (1) 中心市街地の再生
(2) 都市景観の整備 |

第3章 環境にやさしいまちづくり

- | | | |
|-----|----------|-----------------------------------|
| 第1節 | 循環型社会の形成 | (1) 再・省資源化の推進
(2) 新エネルギーの普及・促進 |
| 第2節 | 自然環境の保全 | (1) 自然景観の保全
(2) 湾内の水質保全 |

第4章 うるおいと魅力ある島づくり

- | | | |
|-----|----------|---|
| 第1節 | 生活環境の充実 | (1) 生活基盤の整備 |
| 第2節 | 産業・交流の振興 | (1) 浅海養殖漁業の振興
(2) 浦戸諸島の環境保全
(3) 交流体制の充実 |

第1章 活力ある産業のまちづくり

現状と課題

- ◇ 本市魚市場の水揚げは、漁業環境の変化などによって減少傾向にあります。今後は産地市場としての知名度を生かした生マグロのブランド化事業の推進や、魚市場施設の改修・整備の促進、卸売機関の経営基盤の強化など、将来を見据えた水産都市の基盤づくりが求められています。

また、水産加工業についても、海外市場の影響や流通形態の変化などによって、原材料の安定的な確保や販路の拡大などが課題となっています。今後はさらなる新商品の開発、生産技術の高度化、歴史や文化を生かした「塩竈ブランド」の展開、経営資金の安定確保に向けた融資制度の拡充などが求められています。

浅海漁業についても、基盤施設の更新やブランド化に取り組んできたものの、従事者の高齢化や後継者不足などが顕著となっており、経営基盤の改善、販売ルートの開拓など、魅力ある産業への転換が求められています。

水産業が文化・経済両面で果たす役割の重要性について、業界や行政はもとより、まち全体で改めて認識することが必要となっています。

- ◇ 東北地方唯一の特定重要港湾である仙台塩釜港は、塩釜港区において石油関連企業の撤退や港湾施設の老朽化などによって年々取扱貨物量が減少しています。官民一体となり、施設の整備促進や利活用を推進する必要があります。

また、塩竈神社や市内の観光拠点施設との連携強化、海洋文化施設の誘致などに取り組み、市民が親しみやすく、訪れる人にも魅力的な“みなと”を創造することが求められています。

- ◇ 商業に関しては、本市独自の商業振興策によって小売店舗の出店などが見られるものの、事業所数、販売額とも減少傾向にあり、市民に支持される魅力と個性ある店舗の誘導や後継者育成などが必要です。また商店や商店街は、地域行事や防犯、交通安全など、コミュニティ活動の中心を担ってきたことから、市民全体で支えていくことが大切です。

市内事業所の大半を占める中小・零細企業については、融資制度拡充など、経営の安定化に向けて取り組んでいます。一層の支援を必要とする状況が続いています。

また、定住人口を増加させるためにも、市内の遊休地などを活用したきめ細かな企業誘致活動が必要となっています。



【特定重要港湾】国際海上輸送網または国内海上輸送網の拠点など国の利害に重大な関係を有する重要港湾のうち、特に重要な港湾のこと。

- ◇ 活力ある産業基盤を構築するためには、本市が海との関わりの中で育んできたさまざまな業種・業態を、「交流」という視点を加味して再編成し、1次・2次・3次産業が有機的に連携する柔軟性のある産業構造を構築することが必要となっています。また、基幹産業である水産業について、原材料の購入、製造、輸送、販売の集約化など、コストの縮減、エコ対策につながる効率的な企業連携などが期待されています。

市民とともに目指す目標 ◆◆◆◆◆

- 付加価値の高い水産業を目指し、関連施設の改善を図るとともに、ブランド化やグローバル化にも対応した流通環境をつくります。
- 塩釜港区の整備と利活用を促進し、国内海上流通の一翼を担うとともに、魅力ある“みなと”をつくります。
- 商工業の活性化に向け、本市の実態を踏まえた支援を図り、にぎわいをつくります。
- 食文化などの地域資源を有効活用しながら、企業誘致や産業間の連携を促進し、新たな産業基盤をつくります。



塩釜水産物仲卸市場



塩竈の藻塩を使った新商品

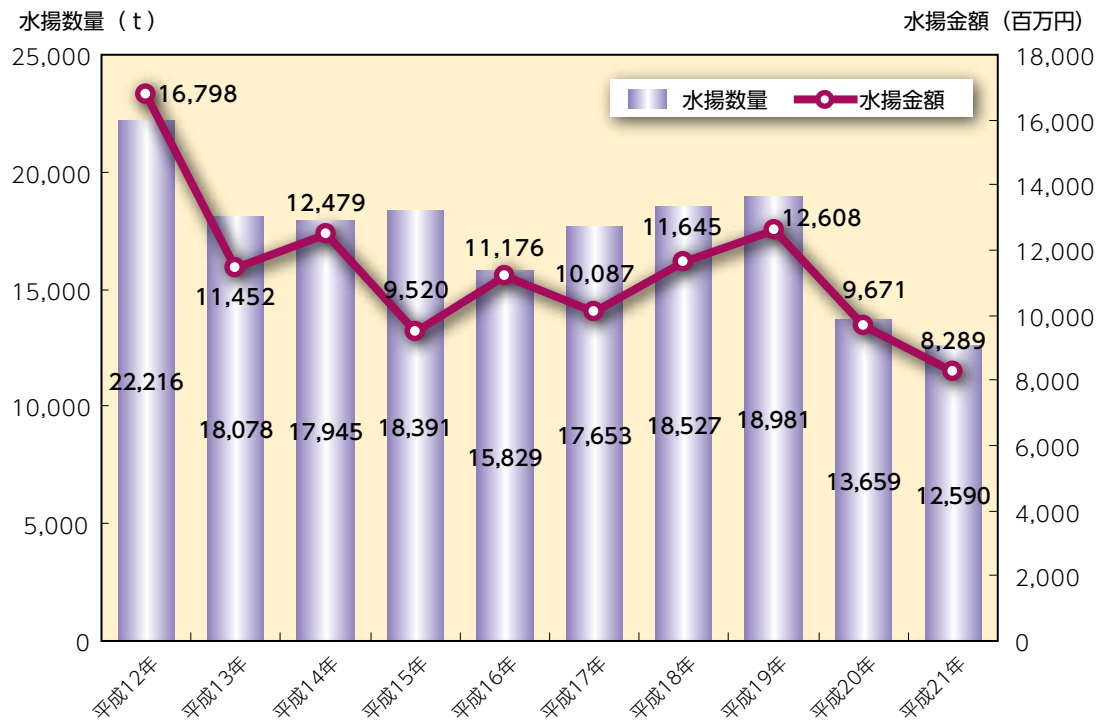
代表的な指標

指標名	基準値	今後の方向性
魚市場水揚げ金額 魚市場に水揚げされる水産物の取り扱い金額。その他関連産業などへの経済効果も示します。	82.9 億円 (H21) ※年次	老朽化した魚市場機能の高度化や、付加価値の高いブランド化事業などを促進し、年間100億円の水揚げ金額の維持を目指していきます。
浅海養殖漁業生産金額 市内で養殖される海苔や牡蠣などの生産金額。	7.5億円 (H21) ※年次	浦戸産品のブランド化や販路の多角化、経営の改善を促進することによって、年間7.5億円を上回る生産高を目指していきます。
水産加工品生産額 市内で製造される水産練り製品や塩蔵品などの生産額。	513億円 (H21) ※年次	付加価値の高い新商品の開発や販路拡大などを促進することによって、年間513億円を上回る生産高を目指していきます。
新商品開発事業による新商品数 関係団体などが実施する新商品開発事業によって開発された新商品数。	17件 (H21) ※のべ数	産学官の連携によって、「塩竈」らしさを追求した競争力のある、付加価値の高い商品開発数の増加を目指していきます。
塩釜港区取扱貨物量 塩釜港区の海上出入貨物量。	210万トン (H21) ※年次	仙台港区との機能分担によって、塩釜港の条件に適合した貨物のシフトを増加させるとともに、塩釜港区への水産冷凍貨物誘致の優遇制度を活用し、貨物量の増大を目指していきます。
事業所数 卸売・小売業、サービス業及び飲食店・宿泊業など全民営事業所数。	3,196事業所 (H21) ※年次	「いきいき企業支援条例」を活用した企業の誘致や、「産業大使制度」(H22年度創設予定)を活用しながら市内事業所の減少抑制を目指していきます。



【前浜物】近海で漁獲される鮮魚のこと。

【三陸塩竈ひがしもの】三陸東沖の漁場で秋口から冬場にかけてマグロ延縄船によって漁獲されたメバチマクロのうち、特に塩釜の目利き（仲買人）により選定された品質を誇るもの。



[魚市場の水揚げ数量・金額の推移]



三陸塩竈ひがしもの

市民の声

「水産製品の高い栄養価とヘルシーさ、高品質、安心・安全な食品であることを全国的にPRする必要があると思います。」
「水産物、水産加工品の付加価値を高める取り組みによって、量から質の時代への対応を図り、まち全体として質を高める仕組みをつくって行く必要があります。」

(市民懇談会活力づくり分科会)

施策体系

第1節 水産業の活性化	定住	交流	連携
(1) 魚市場の活性化	◎	◎◎	◎
① マグロ類や「前浜物」などの水揚げ増進の支援に努めます。 ② 「魚のまち」のこだわりとして「三陸塩竈ひがしもの」に代表される水産物ブランド化の取り組みを支援し、水産物の付加価値と魚価の向上を図ります。 ③ 魚市場施設の衛生管理の向上や機能の高度化を図ります。 ④ 生産や流通などの関連情報の収集に努めるとともに、関係者と連携しながら魚市場機能の強化を図ります。 ⑤ 地元消費者などに対する水産物に関する情報を発信し、魚食普及と消費の拡大を促進します。			
(2) 水産加工業の振興	◎	◎◎	◎
① 消費者ニーズの把握に努め、販路の拡大・開拓に努めます。また、食の安全・安心に対応するため生産・流通履歴を明らかにする取り組みを促進します。 ② 水産加工品の付加価値や価格形成力の向上を目指すブランド化事業の支援に努めます。 ③ 加工原魚を外国から安定的に確保するとともに、製品の販路を国内外に拡大するため、関係機関との交流や情報交換を促進します。 ④ 多様化する流通経路に対応するため、見本市などの取り組みを促進します。 ⑤ 「魚のまち」として、水産物や水産加工品などを活用した観光の振興や交流の支援に努めます。			
(3) 浅海養殖漁業の振興	◎	◎	◎
① 魅力ある産業としてのイメージ向上や経営の安定化を支援し、後継者や新規就労者の確保に努めます。 ② 地場海産物の知名度向上と販路拡大に向けて、浦戸ブランド「うらと海の子」の活用を図るとともに、各種体験イベントなどを通してその魅力の発信に努めます。 ③ ホヤなどの種苗育成や販路拡大の取り組みを支援し、商品力と価格形成力の向上に努めます。			



【うらと海の子】浦戸産海産物のイメージ向上のために作成したイメージキャラクターのこと。





仙台塩釜港塩釜港区

第2節 港湾機能の強化

(1) 港湾機能の強化促進

◎

◎

○

- ① 港湾計画に定める事業の早期実施について、国や県への働きかけに努めます。
また、本市独自の優遇制度を活用し入港船舶や貨物量の増加を図ります。
- ② 旅客船の誘致に努め、市内経済への波及効果を促進します。

(2) 利活用の推進

◎

◎

○

- ① 仙台港区と塩釜港区の役割を明確にし、それに基づく活用に取り組みます。
- ② 塩釜港区の持つ観光、防災など、多様な機能を生かした利活用の促進を図ります。

(3) “みなと”の魅力向上

◎

◎

◎

- ① “みなと”とまちが一体化している特徴を生かし、“みなとまち”としての魅力向上に取り組みます。
- ② 市民や観光客が海に触れ合う拠点として、港奥部の親水空間整備を促進します。
- ③ 穏やかな海面である塩釜港の特性を生かし、プレジャーボートなどの海洋性レクリエーションの拠点化を図り、“みなと”の魅力向上に努めます。

市民の声

「『仙台塩釜港』は東北唯一の特定重要港湾であり、漁港・観光港・港湾の3つの機能を兼ね備えた『みなと』です。地理的条件から物流に有利で、駅から『みなと』に近い都市という特徴を活かしていくことが必要だと思います。」

「塩釜の港では、出入りする船もさまざまで、保安部の巡視船、貨物船、タンカー船、観光船、漁船、釣舟など、まさに“動く船の博物館”です。市民の憩いの場所として、子どもから大人まで家族で楽しめる港の公園が出来れば良いと思います。」

(市民懇談会活力づくり分科会)



外国客船の誘致



【プレジャーボート】ヨット、モーターボート、水上オートバイなど、海洋レジャーに使われる船艇の総称。



もとまち商店街

第3節 商工業の振興	定住	交流	連携
(1) 商店街の活性化支援	◎	◎	○
① 商店と消費者を結びつける取り組みを通して、郊外型量販店との差別化を図った、独自性のある商店の育成を図ります。 ② 老舗の景観などを生かした魅力的な商店街の再生や、商業関係団体によるまちなか交流拠点の構築、観光バスの誘致活動などの支援に努めます。 ③ 高齢社会に対応した、利用しやすく親しみのある商店街づくりを支援します。			
(2) 中小企業経営支援の充実	◎	◎	○
① 商工会議所などと連携を図りながら、中小・零細企業などへの指導、相談、研修を実施し、経営の安定化、後継者の育成を図ります。 ② 商業関係団体などとの連携を強化し、融資制度など、経営基盤強化の支援に努めます。			
(3) 企業立地の推進	◎	◎	○
① 水産業を中心に関連産業が集積していることや、利便性の高いまちであることなど、本市の魅力を積極的に紹介し、企業誘致を推進します。 ② 遊休地情報とともに、既存企業の情報を発信し、企業間交流を促進します。 ③ 本市独自の企業誘致支援制度を活用し、企業誘致に努めます。			
(4) 就業・雇用環境の向上	◎	◎	○
① 関係機関や企業と協働で、就業・雇用の推進を図ります。			

市民の声

「地酒や“塩竈の藻塩”などを活用して塩竈らしい商品（世界一のツナ缶等）開発を行い、それらを首都圏に売り込むことによって、地域活性化につながるのではないのでしょうか。」

「魅力あるお店づくりやPR活動を支援して、小売店や商店街を支えていく必要があります。」

（市民懇談会活力づくり分科会）



フード見本市



シャッターオープン事業

第4節 産業間連携の促進

(1) 異業種交流の促進

◎

◎

◎

- ① 異業種交流に向けた情報共有や、交流機会の創出を図り、付加価値の高い商品開発、販路開拓の支援に努めます。

(2) 新たな産業展開の支援

◎

◎

◎

- ① 国や県などの施策を活用しながら、豊かな海とコンパクトで便利なまちを生かした新たな産業の創出や起業家支援に取り組みます。
- ② 企業と研究機関などの連携による、新商品開発、新規事業の開拓を促進します。

(3) 広域交通体系の整備

◎

◎

◎

- ① 広域交流や物流アクセス機能を高めるため、広域幹線道路ネットワークの整備を促進します。

市民ができること ◆◆◆◆◆

- ☐ 地場産品を積極的に消費します。
- ☐ 地域のコミュニティの中心を担ってきた地元商店や商店街を支えるために、これからもできるだけ地元で買い物をします。
- ☐ 一人ひとりが「産業大使」として、水産物や水産加工物などの「塩竈」の誇る地場産品を積極的にPRします。
- ☐ 事業者として、地元雇用に努めます。
- ☐ 事業者として、地域コミュニティ活動へ参加し、地域と密着した経営を進めます。

ひとくちメモ

塩釜水産物仲卸市場

住所：〒985-0001 宮城県塩竈市新浜町1-20-74
TEL：022-362-5518 FAX：022-362-5517

施設内容

鮮魚介類をはじめ、塩干加工品・凍魚・冷凍食品・珍味などを取り揃えています。早朝3時から開店し“いらっしゃい”のかけ声とともに市場内は活気に満ちあふれます。“観光化されたお土産市場”ではなく、業者対象の卸市場、厳しい目利きの“プロ”たちに鍛えられてきた市場です。そして、その品質を一般の方々にも卸価格でお買い求めいただくことができます。



第2章 観光と交流のまちづくり

現状と課題

- ◇ 都市観光による交流人口の拡大に向け、本市の歴史や文化、自然、食などの魅力ある地域資源にさらに磨きをかけ、関係情報を戦略的に発信することが必要になっています。
また、鹽竈神社やマリゲート塩釜など、集客機能の高い各拠点を有機的に結びつけることによって中心部のネットワークを強化し、国際観光ガイドブックでの2つ星という高い評価をさらに高めるように努めていく必要があります。
- ◇ 中心市街地は、鹽竈海道を都市軸とした“海と社を結ぶまちづくり”が進められてきました。しかし、中心商店街の活力と集客性が低下していることから、さらなる拠点整備や、歴史的なまちなみの景観を向上させ回遊性の強化を図ることが求められています。
また、港奥部周辺では、広域観光の拠点として、海辺を生かした魅力とにぎわいのある交流空間づくりが求められています。

市民とともに目指す目標

- 「魚のまち」「寿司のまち」「地酒のまち」「スイーツのまち」「藻塩のまち」と呼ばれる本市の魅力ある食を積極的に発信するとともに、訪れた人々が“おいしさ”などを気軽に楽しめるように、まち全体に笑顔でもてなす体制をつくります。
- 本市の“顔”となる中心市街地を再生し、回遊性の高いまちをつくります。また、まちの魅力を生かしながら、歴史、文化が感じられる趣のある“まちなみ”をつくります。

市民の声

「塩竈は、歴史が深く、名所・旧跡がたくさんあります。また、街並みには、酒蔵や老舗、駄菓子屋など、レトロな建物が点在しています。」

「地元の人しか行かないような小さな祭り、地域の人大切に思っている宝などを掘り起こし、地域内発型の旅行商品を発掘してはどうでしょうか。」

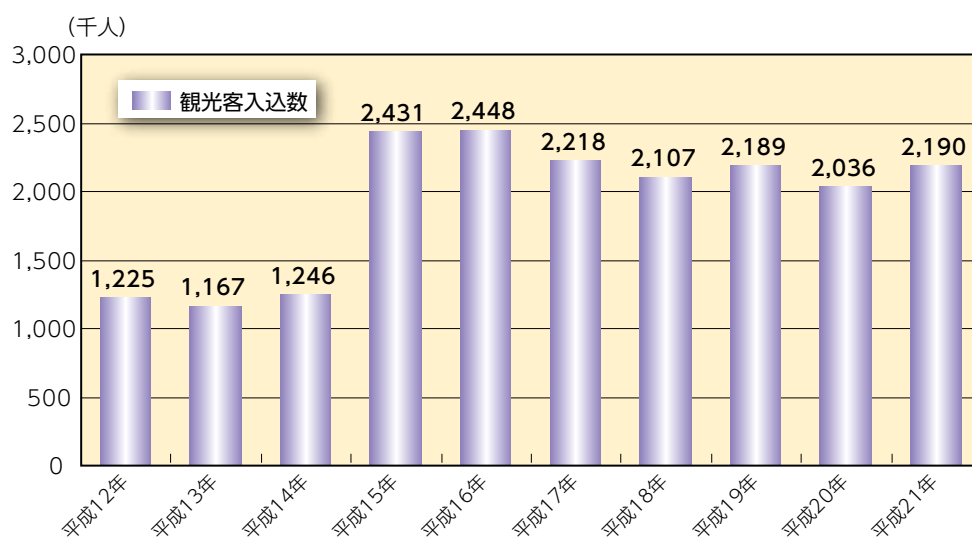
(市民懇談会うるおいづくり分科会)



「塩竈みなと祭」陸上パレード

代表的な指標

指標名	基準値	今後の方向性
観光客入込数 主要観光施設や集客交流イベントによる観光客数。	219 万人 (H21)	仙台を訪れた観光客が本市まで足を延ばしたくなるような多様な観光資源の開発やおもてなしを展開し、観光客を増加させていきます。
まちなか歩行者数 市内4地点における1日の歩行者数。	7,783 人 (H21)	今後、中心市街地の歴史的なまちなみや“みなと”の魅力を生かしながら回遊性を高め、歩行者数を増やしていきます。
「塩竈みなと祭」の入込客数 「塩竈みなと祭」における前夜祭と本祭の入込客合計数。	14.2 万人 (H21)	「日本三大船祭り」の一つとして、県外からの観光客誘致に努め、入込客数を増加させていきます。
観光拠点数 市内における観光客が年間10万人以上訪れる箇所数。	3 箇所 (H21)	鹽竈神社、塩釜水産物仲卸市場、マリングート塩釜の他にも、年間10万人以上訪れる観光拠点を増やしていきます。



[年次別観光客入込数]

都市計画道路北浜沢乙線



施策体系

第1節 都市観光の推進	定住	交流	連携
(1) 観光資源の創造と情報発信の推進	◎	◎	○
① 「魚のまち」「寿司のまち」「地酒のまち」「スイーツのまち」「藻塩のまち」 として、さらなる地域資源の発掘や産業間の連携によって、“おいしさ”などの 新たな観光資源の創出を推進します。 ② 港奥部の海辺空間や歴史的なまちなみを生かした新たな観光スポットの創出を図 ります。 ③ 個人旅行者向けの観光企画を展開し、日常的な観光客の集客に取り組みます。 ④ 外国人観光客の集客を推進するため、受け入れ体制の充実を図ります。			
(2) 笑顔でもてなす体制の充実	○	◎	◎
① まち全体が一体となって来訪者を笑顔でもてなすとともに、来訪者が笑顔で満喫 できる観光サービスの提供に努めます。 ② 海や“みなと”、門前町のたたずまいを生かしながら、魅力ある観光拠点づくり に努めます。			
(3) 広域観光の推進	○	◎	◎
① 周辺市町や東北の代表的な観光地との広域的な連携によって、質の高い観光の展 開と交流人口の拡大を図ります。			

市民の声

「地元の小さな祭り、地域の人大切に思っ
 ている宝などを掘り起こし、観光資源とす
 ることが大事です。」

「松島観光の玄関口として松島や近隣市町村
 との連携を強化していく必要があります。」

(市民懇談会活力づくり分科会)

100万都市仙台市に隣接していることを生か
 し、喜んで来ていただけるまちづくりを進め
 てはどうでしょう。

(地区懇談会東部地区)



観光ボランティアガイドによるまちなか観光

市民の声

「趣のあるまちなかを創っていく必要があります。」

（市民懇談会うるおいづくり分科会）

「観光客のための分かりやすい観光コースの設定、案内板の設置や、鹽竈神社へのアクセスなど、交通網整備が必要となっています。」

（市民懇談会活力づくり分科会）

酒蔵のライトアップ



第2節 魅力ある都市空間の形成

定住

交流

連携

(1) 中心市街地の再生

◎

◎

○

- ① 鹽竈神社から港までの都市軸において、回遊性の高い都市空間整備を進めるとともにその活用を図ります。
- ② 市民や観光客が海に触れ合う拠点として、港奥部の親水空間整備を推進します。（再掲）
- ③ “コンパクトなまち”を生かし、都市機能が集積する中心市街地へのまちなか居住を促進し、中心部のにぎわい再生に取り組みます。

(2) 都市景観の整備

◎

◎

◎

- ① 歴史や文化を生かし、門前町の風情を醸し出すまちなみ形成を図るとともに、市民協働による景観ネットワーク整備を推進します。
- ② 来訪者に親切な誘導標識などの整備に努めます。

市民ができること ◆◆◆◆◆

- ☐ “笑顔”と“おいしさ”で観光客をもてなします。
- ☐ 新たな観光スポットを楽しみながら見つけ、広げる運動を進めます。
- ☐ 観光客に笑顔で道案内をします。
- ☐ 「塩竈」ならではの魅力的な景観づくりに協力します。

ひとくちメモ

鹽竈海道

施設内容

中心市街地では、陸奥国一宮 鹽竈神社を核とした「海と社を結ぶ歴史的参道空間づくり」の取り組みが行われています。その基軸である鹽竈海道（北浜沢乙線）は、「道そのものが博物館」をテーマに、紫式部など著名な歌人100人の和歌を配した「鹽竈百人一首」のほか、「伊勢物語」や「おくのほそ道」など、塩竈ゆかりの文学碑を展示しています。



第3章 環境にやさしいまちづくり

現状と課題

- ◇ 循環型社会を構築するため、塩竈市環境基本条例に基づく環境基本計画を策定し、市民、企業、行政が連携し、あらゆる分野において環境の改善に取り組んできました。今後もさらなるごみの減量化、リサイクルの強化が求められています。
また、地球温暖化対策として、新エネルギーの普及促進など、更なる温室効果ガスの排出抑制が求められています。
- ◇ 浦戸諸島に代表される本市の豊かで美しい自然景観の保全に取り組む必要があります。

市民とともに目指す目標

- 環境問題への関心を高め、市民、企業などの自主的な取り組みによって、環境負荷の少ない循環型社会をつくれます。
- 「塩竈」の誇る美しい海と島々と、一森山などの豊かな自然環境を守りながら、風光明媚なまちをつくれます。



市営汽船に寄ってくるウミネコ

用語解説

【温室効果ガス】地球温暖化の原因といわれている、二酸化炭素、メタン、フロン、亜酸化窒素などのこと。これらのガス排出量増加により地球全体の平均気温が上昇する。

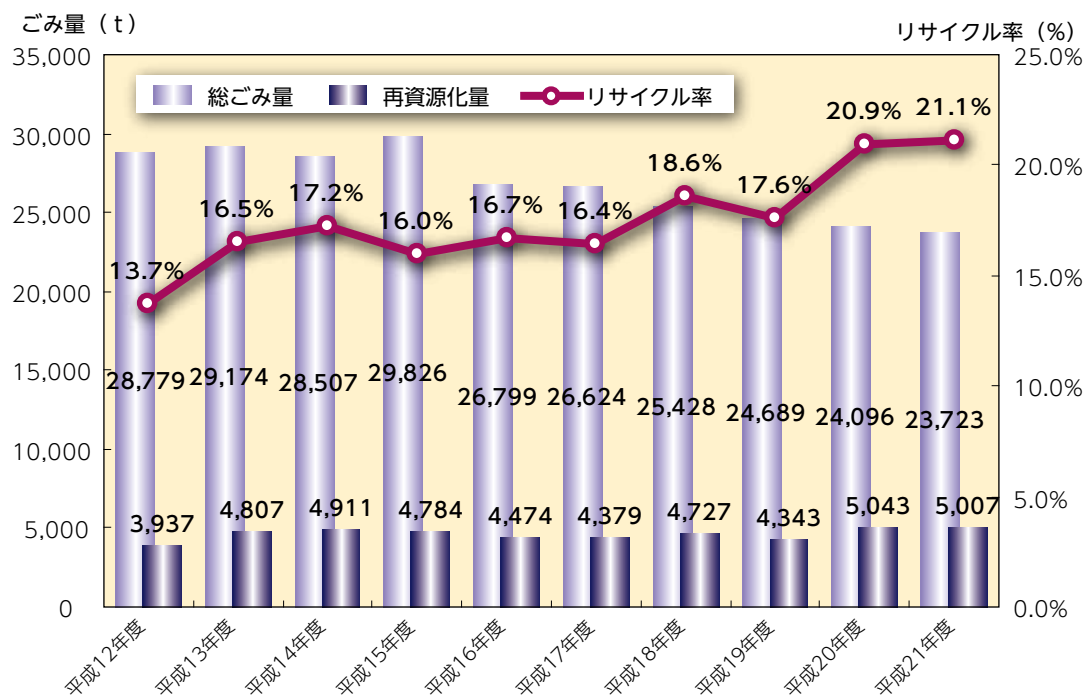
【新エネルギー】太陽熱・光・風力・波力などの自然エネルギー、オイルサンド、石炭液化・ガス化などの合成燃料、水素エネルギーなどの総称。世界レベルで資源の枯渇や地球温暖化が問題になる中、石油や原子力に変わる代替エネルギーとして期待されている。



小学校の清掃活動

代表的な指標

指標名	基準値	今後の方向性
1人1日当たりの家庭系ごみ量 家庭からの一般廃棄物収集・搬入される1人1日当たりのごみの量。	727g (H21)	市民と連携しながら減少させていきます。
一般廃棄物のリサイクル率 一般廃棄物収集・搬入量のうち、再資源化量の割合。	21.1% (H21)	市民や町内会などと連携しながら高めていきます。
自然環境保全の満足度 市民意向調査による自然環境の保全に対する満足度。	58.9% (H21)	風光明媚な浦戸諸島や一森山などの自然を保全し、満足度を高めていきます。



〔一般廃棄物の収集量とリサイクル率の推移〕



浦戸の雄大な景観

施策体系

第1節 循環型社会の形成	定住	交流	連携
(1) 再・省資源化の推進	◎	○	○

- ① 再・省資源化を図るため、ごみの減量化や容器包装プラスチックなどのリサイクルを推進します。
- ② 市民、企業との連携を強化し、環境負荷の少ない持続可能なまちづくりを計画的に推進します。

(2) 新エネルギーの普及・促進	◎	○	○
------------------	---	---	---

- ① 温室効果ガスの排出を抑制していくため、新エネルギーの普及を図ります。

第2節 自然環境の保全	定住	交流	連携
(1) 自然景観の保全	◎	◎	○

- ① 浦戸諸島や一森山からの眺望など、すぐれた自然景観の保全を図ります。

(2) 湾内の水質保全	◎	○	○
-------------	---	---	---

- ① 良好な環境保全のため、下水道施設の適切な維持管理に努めます。

市民の声

「鹽竈神社は素晴らしい観光資源であり、202段の表坂や裏坂から眺める景色には情緒があります。帆手祭や花祭など、一見に値する祭りも行われています。」

「志波彦神社から望む千賀の浦の風景が美しいです。」

「千賀の浦や一森山等の風景を活かした、趣のあるまちなかを創っていく必要があります。」

(市民懇談会うるおいづくり分科会)



志波彦神社から望む千賀の浦



バイオディーゼル燃料を使用したしおナビ100円バス

市民ができること ◆◆◆◆◆

- 循環型社会の実現に向け、ごみの減量化とリサイクルに取り組みます。
- 環境美化を推進し、観光客などに「塩竈」のすばらしさをPRしていきます。



中学生の市内清掃活動

ひとくちメモ

魚から始まるエネルギーづくり

取組内容

市内新浜町のバイオディーゼル工場では、平成18年度から1,200L/日の製造装置を導入し、日本一の生産量を誇る揚げ蒲鉾工場から発生する廃食用油を原料にバイオディーゼル燃料の製造を行っています。そして、しおナビ100円バスをはじめ、自動車や船舶で使用し、エネルギーの地産地消を推進して、省エネ、循環型社会の実現を目指しています。



第4章 うるおいと魅力ある島づくり

現状と課題

- ◇ 4島5地区からなる浦戸諸島は、若年層の流出による人口減少と高齢化が急速に進み、その対応が急務となっています。

離島航路は、通勤や通学、通院、物資の輸送など島民の足として日常生活に不可欠な航路ですが、利用者は年々減少しています。経営の安定化と運航便数の維持には、島民はもとより観光客が利用しやすい運航体制の確保に努め、観光客の増加を図ることが必要です。

医療福祉体制については、島民の高齢化が進んでおり、定期的かつ継続的な診療体制の維持や、高齢者福祉サービスの確保が課題となっています。

また、併設・特認校である浦戸第二小学校と浦戸中学校については、今後も特色ある教育を推進していくことが求められています。

- ◇ 浅海漁業は、従事者の高齢化や後継者不足に対応するため、経営基盤の改善や海産物のブランド化を推進し、販路を開拓するなど、魅力ある産業への転換が必要となっています。

また、浦戸諸島は、特別名勝松島内に位置し、東京から3時間、仙台から1時間程度の時間距離にあり、豊かな海の幸と歴史的資産、ゆったりとした“島じかん”を体感できます。このような魅力を積極的に発信するとともに、さらなる交流人口の増加に向け、交流・体験事業など、観光客を迎え入れる体制の充実が求められています。

市民とともに目指す目標

- 浦戸諸島のすばらしい自然環境と調和した、快適な生活環境をつくります。
- 浦戸諸島ならではの自然や特色を生かしながら、浅海漁業などの振興や交流活動を推進し、魅力ある島をつくります。



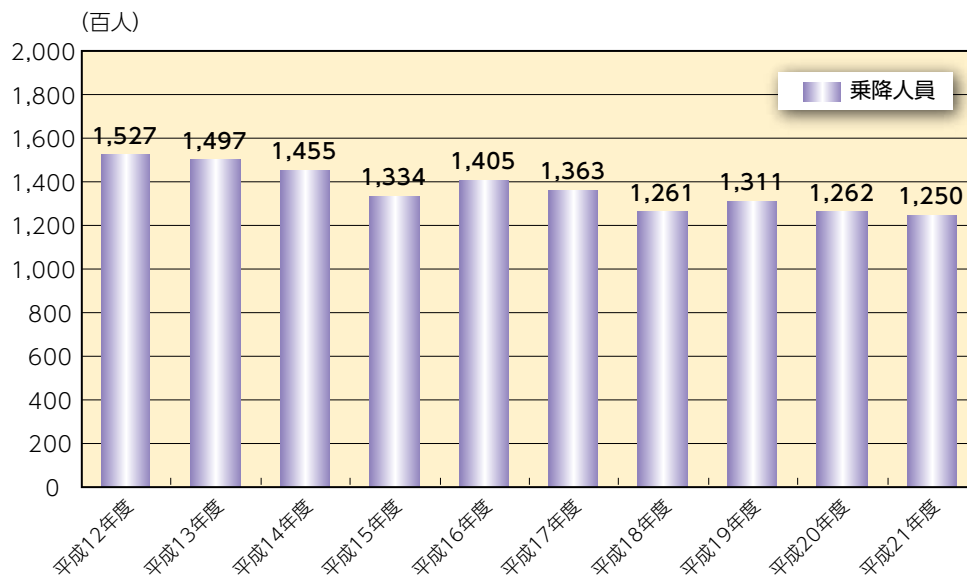
牡蠣むき体験事業



フラワーアイランドのラベンダー畑

代表的な指標

指標名	基準値	今後の方向性
市営汽船乗船客数 市営汽船の乗船客数。	17.8 万人 (H21)	人口流出の抑制と、浦戸の魅力の発信や交流事業の実施によって観光客の増加を図り、乗船客数を増加させていきます。
交流事業の実施回数 浦戸諸島での体験交流事業の実施回数。	8 回 (H21)	浦戸の魅力をPRする絶好の機会として、実施回数を増加させていきます。
浅海養殖漁業生産金額(浦戸分) 浦戸で養殖される海苔や牡蠣などの生産金額。	6.7 億円 (H21)	浦戸産品のブランド化や販路の多角化、経営の改善を促進することによって、年間6.7億円を上回る生産高を目指していきます。



[浦戸諸島定期航路乗降人員の推移]

※定期券を除く

市民の声

浦戸には素晴らしい海と文化があり、蝉の声も聞こえる豊かな自然が残されています。」
「市民と浦戸との関わりが薄くなっているので、様々なイベントなどで浦戸に接する機会を創造していく必要があります。」

(市民懇談会うるおいづくり分科会)

野々島の浮き桟橋



施策体系

第1節 生活環境の充実	定住	交流	連携
(1) 生活基盤の整備	◎	○	○
① 島民はもとより、観光客も利用しやすい運航体制の確保に努め、市営汽船の経営基盤の安定化と強化を図ります。 ② 安心・快適に生活できるよう、福祉などの生活支援サービスの充実を図ります。 ③ 年間を通じて定期的な診療体制の維持・提供に努めます。(再掲) ④ 併設・特認校である浦戸第二小学校や浦戸中学校の特徴を生かし、一人ひとりの子どもの個に応じた特色ある教育を推進します。			
第2節 産業・交流の振興	定住	交流	連携
(1) 浅海養殖漁業の振興	◎	◎	◎
① 魅力ある産業としてのイメージ向上や経営の安定化を支援し、後継者や新規就業者の確保に努めます。(再掲) ② 地場海産物の知名度向上と販路拡大に向けて、浦戸ブランド「うらと海の子」の活用を図るとともに、各種体験イベントなどを通してその魅力の発信に努めます。(再掲) ③ ホヤなどの種苗育成や販路拡大の取り組みを支援し、商品力と価格形成力の向上に努めます。(再掲)			
(2) 浦戸諸島の環境保全	◎	◎	◎
① 交流事業や民間の活動支援を通して、浦戸諸島の自然景観や歴史的資源の保全・継承を推進します。 ② 浦戸でボランティア活動を行う団体などと連携して、新たな魅力の発掘と創造を推進します。			
(3) 交流体制の充実	◎	◎	◎
① 住まい情報の発信など、定住人口の確保に努めます。 ② 島民や各種団体と連携しながら体験交流事業を実施し、浦戸の魅力発信に努めます。 ③ 多くの観光客や、浦戸を活動の場とする団体を迎え入れるため、受入環境づくりを推進します。			



海苔の養殖

市民ができること ◆◆◆◆◆

- 浦戸ならではの自然や風土の魅力に誇りを持ち、その保全・継承に努めます。
- 浦戸諸島を四季折々に訪れ、自然を満喫するとともにその魅力をPRします。



浦戸全景

ひとくちメモ

浦戸諸島開発総合センター

住所：〒985-8501 宮城県塩竈市浦戸野々島字河岸50
TEL：022-369-2240 FAX：022-369-2435

施設内容

研修室、調理室、軽運動もできる集会室等がある宿泊研修施設です。また島民の方々へ住民票や印鑑証明等を発行する支所機能も備えています。季節に応じて、島散策や海苔すき、牡蠣むきなどの体験交流事業を実施しており、センター前の岸壁では、釣りや蟹とりなどもできます。



コラム

しおがま 今昔 2

水産業の歴史
～日本有数の漁港～

塩竈市魚市場祭

塩竈のみなとは、奈良時代に国府多賀城の津（港）として開かれたといわれています。江戸時代は伊達家の保護もあり、仙台の外港として水産物の水揚げが活発でした。その後、明治15年に始まった漁港整備や明治20年の鉄道の開通により、水産物取引が活発化し、後の発展の礎が築られました。

明治後期には底引き網漁業の発達により、仙台湾でイワシ、カレイ、油鰯など大量の水揚げがあり、他県漁船の出入港も増加しました。

大正時代になると沖合漁業が主流となり、メヌケの延縄船が塩竈を根拠地にして操業するなど、港は大いに賑わいを見せました。また、水揚げの増加に伴い焼竹輪などの水産加工品の製造も盛んに行われるようになってきました。

昭和4年に岸壁の一部に屋根を設け塩竈魚市場が開設されました。

昭和初期には年間約4万トン、昭和11年には約12万トンと水揚げ量は順調に増加していましたが、太平洋戦争による燃料や漁船の欠乏、漁船員の徴用などの影響により水揚げ量は一時

激減しました。

戦後、漁船の大型化などにより大量水揚げが続くようになりました。このころはサンマが総水揚げ量の半分を占めていました。

そして、昭和30年代後半に入ると、北洋海域での大型底引き網漁船「北転船」の基地として多量の水揚げがあり、昭和45年には18万トンを超えました。

当時の塩竈の主な水揚げ魚種は、タラ、スケソウタラ、サケ・マスなどであり、この水揚げを背景に水産加工業もこの時期大きな発展をとげました。従来の魚市場施設が手狭になり、昭和40年に新しい魚市場が建設されました。

現在は、主に生鮮マグロの水揚げ基地となっています。特に、秋口から初冬にかけて「まぐろ延縄船」によって水揚げされる生鮮メバチマグロは、「鮮度」「色ツヤ」「脂のり」「うまみ」に優れています。このうち、特に塩竈にいる日本一の目利き人の目になかったものを「三陸塩竈ひがしもの」としてブランド化し、全国へ売り出しています。



旧塩竈魚市場



現在の塩竈市魚市場